



よいこのあんぜんニュース

2025年(令和7年)10月8日発行 468号付録

少年写真新聞 株式会社 少年写真新聞社

〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14 HF九段南ビル URL <https://www.schoolpress.co.jp/>
©少年写真新聞社 2025年 ※著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

★定期刊行物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても購読中止のお申し出がない場合、引き続きニュースをご送付申し上げます。

大人が意識をもち子どもを犯罪から守りましょう

全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子

ようやく雪さが終息を見せ、秋へと変わり始めてます。体を動かしたり、お出掛けしたりすることが心地よい季節になってきました。親子そろって楽しく公園や買い物に出掛けたいものです。

その際に、子どもが犯罪に巻き込まれないようにするためには、まずは大人の意識が大切です。子どもの安全や家族の安心を守るために、常に子どもと周囲の様子に目や気を配り、ちょっとした時間でも「子どもだけにしない」「子どもだけにさせない」ようにして、外出先での危機管理意識を高めましょう。

大人が子どもから目を離さない

外出時には、大人が子どもから目を離さないということを心掛けましょう。併せて、子どもにも、一人で行動しないこと、保護者から離れないことを指導しましょう。

外出先では、事件や事故が起こりやすい場所、不審者が潜みやすい場所をイメージしてみましょう。トイレや建物の影などの隠れやすい場所、暗がりの道等には特に注意を払い、必ず親子で一緒に行動しましょう。

大型商業施設での危険

休日に、大型商業施設に親子で出掛けることも楽しいですね。

大型商業施設は買い物だけではなく、映画館やアミューズメントパークも併設しており、大人も子どももわくわくした気持ちで、興味の赴くままに行動してしまいがちになります。

たくさんの買い物客、施設利用者で混雑することもあります。目を離して、迷子になってしまうかもしれません。

駐車場も広く、ひっきりなしに車が移動しています。やっと見つけた自家用車に思わず周囲を見ずに駆け寄り、事故に遭ってしまうかもしれません。

施設内は広く滞在が長時間になり、トイレを利用するでしょう。ベンチ等の腰掛けられる場所に座り、スマートフォンを操作しながらタイミングをうかがい、親が子どもから目を離れたすきを狙う不審者も存在します。

「何か怪しい」の感覚をもつ

本園では、定期的に不審者対応避難訓練を行っています。「いかのおすし」を知らせ、不審者に遭遇した際の身の守り方の指導もしています。指導の際に、幼児に「『不審者』って知っている？」と聞いてみました。すると、「わるいひと」とのこと。「『わるいひと』ってどんな人？」と聞くと、「サングラスをかけてフードをかぶっている人」「マスクしている人」とのことでした。今まで絵本等で指導してきたイラストのイメージと思われました。「暑い日にはサングラスをかけている人もいるよね……」と返すと、幼児から「何か怪しい、っていう人」という発言がありました。言い得て妙で、見た目では判断しにくい「わるいひと」ですので、「何か怪しい」という感覚も大切で、身につける必要を感じた避難訓練でした。

あんぜんだより

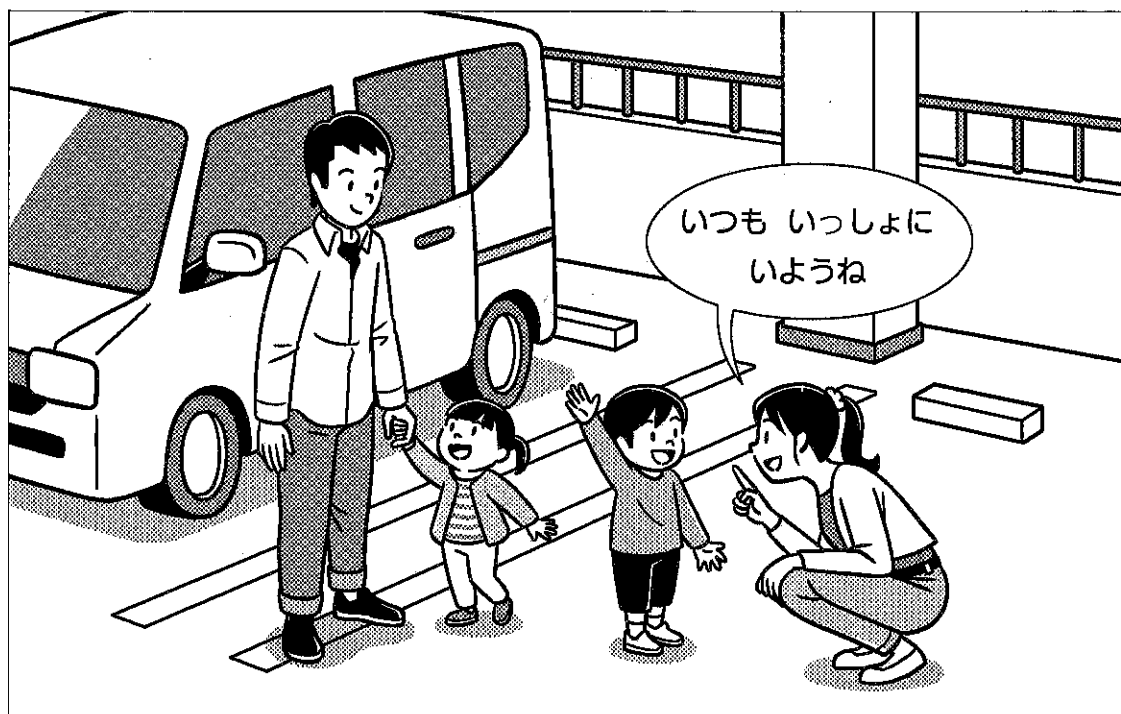
監修 全国学校安全教育研究会／東京都荒川区立南千住第二幼稚園 園長 立石晃子先生



子どもだけにしない 子どもだけにさせない

外出の時は 必ず保護者が付き添い、子どもと一緒にいることが大切です。外出先で保護者のもとを離れると、どのような危険があるのかを再確認して、少しの時間であっても子どもだけで行動しないこと、させないことを徹底しましょう。

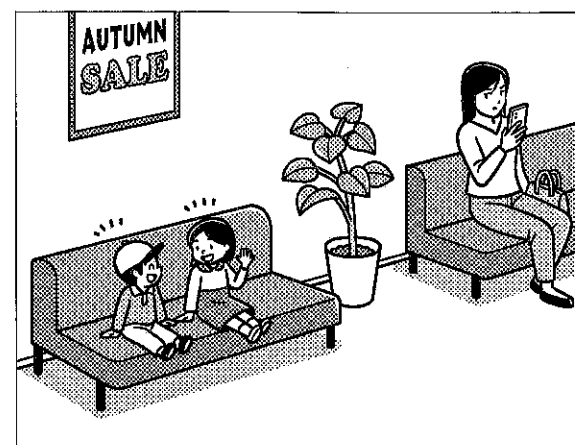
でかける ときの やくそく



でかけた ときには かならず おうちの おとなの ひとと いっしょに いようね。すこしの あいだでも こどもだけに ならないように してね。

保護者の方へ 大型商業施設などに設けられた休憩スペースやフードコートなどで、子どもだけで待たせている様子を見受けられますが、不審者に狙われる危険があります。トイレも、中に不審者が潜んでいる可能性があるため、必ず中まで保護者が付き添いましょう。店舗外や、店舗内でも奥まった場所にあるトイレは、特に注意が必要です。駐車場では、不審者の危険だけではなく、交通事故の危険もあります。外出時には、大切な子どもの命を危険から守るために、保護者は子どものそばから離れず、常に子どもと周囲に気を配りましょう。

こどもだけに になると どんな あぶない ことが あるのかな



きゅうけいベンチ

すこしの あいだだからと
いって こどもだけで いると
わるい ひとから ねらわれて
しまうかも しれないよ。

おうちの おとなの ひとと
いっしょに いようね。

トイレ

わるい ひとが トイレの
なかに かくれているかも
しれないよ。

こどもだけで いかないで
かならず おうちの ひとと
なかに はいろうね。

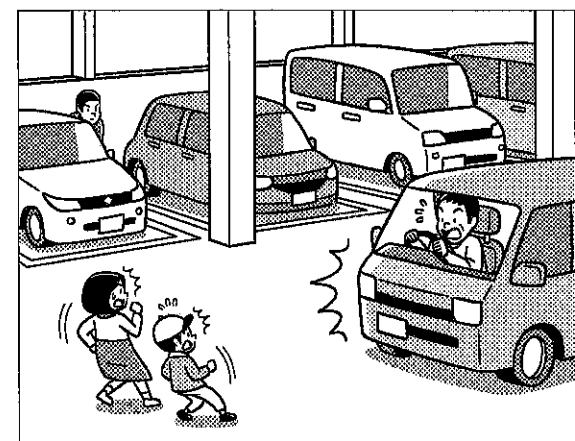


ちゅうしゃじょう

わるい ひとが かくれて
いるかも しれないよ。

はしって くる くるまと
ぶつかったら たいへん。

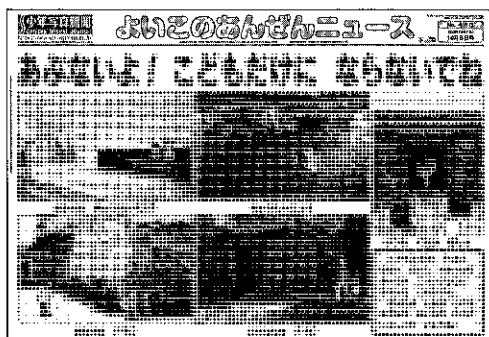
こどもだけで いたり
あそんだり しないでね。



11月号では「ポケットに手を入れる危険」について取り上げます。

今月の掲示用ニュース 指導例

ねらい 外出先で子どもだけになる危険を知り、保護者と一緒にいる大切さを知る



展開例

いろいろなところにお出かけすることがあると思うけれど、子どもだけで行くと危ないところがあるよ。覚えておこうね。

【左上の写真から順番に示しながら】お店の階段のそばにあるベンチは、人があまり通らないことがあるよ。お店のトイレも同じで、あまり人が来ないことがあるよ。怖いことがあっても、誰かに助けてもらえないかもしれないね。駐車場では、悪い人に車に乗せられたり、走ってきた車にひかれてしまったりする危険があるよ。お店のトイレも危ないけれど、あまり人の来ない公園のトイレも同じだよ。線路の下を通る道のようないつも暗い場所も、悪い人が隠れているかもしれないよ。

お出かけの時は子どもだけにならないで、おうちの大人の人をそばを離れないでね。

不審者の声かけから始まる子どもの危険

～子どもだけで行動することが増える小学校までに身につけたい防犯対策～

今号では、外出先を中心に、子どもだけで行ってはいけない場所を取り上げました。ほかにもあると思いますが、基本的には子どもを一人にせず、不審者から声をかけられないようにすることが大切です。特に幼児は、相手の言動から良い人か悪い人かの判断ができず、逃げることもうまくないので、必ず保護者、大人と一緒にいて行動することが求められます。

危険な場所は外出先だけではなく、身近な場所にもあります。マンションなどでは階段や植え込みの陰、自転車置き場なども、マンションのつくりによっては危険な場所になります。家を出てすぐの道路でさえ、不審者が車で移動することがあるので、必ず安全だとはいえません。子どもから目を離すことなく、大人の都

合を優先して子どもが一人になる場面をつくらないようにすることが大切です。

なお、小学校に上がると、このような状況は変わることなく、子どもだけの行動が増えます。小学校に上がるまでに、どのような危険があつて、どう対処したらよいのか、保護者は子どもとコミュニケーションをとりながら、身の守り方を身につけさせる必要があります。一人でいることの危険を繰り返し問いかけ、子どもの身を案じることで、子どもも危険を知るだけではなく、保護者を不安にさせないように確認をとるようになり、勝手な行動を抑えるようになるものです。これは、小学校に上がってから、黙って出かけることの防止にもつながるはずです。

参考 警察庁 子ども防犯テキスト「みんなで気をつけようね」ほか